

2014年10月30日

(本資料は、ロンドンにて 2014 年 10 月 28 日付で配信した発表資料の参考訳です。)

スタンダードチャータードPLCは、10月28日付で、2014年度第3四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズは、次のように述べています。

「市場環境の低迷が続いた第 3 四半期でしたが、当行グループの営業利益は前年同期比で小幅な増加を達成しました。当行は、投資の優先順位の見直し・非コア事業の切り離し・特定ポートフォリオのリスク軽減・資本再配分などを含む新経営戦略を推進しています。進出先における多くの有望分野への投資能力を拡充するために、当行は更なるコスト削減に取り組んでいます。具体的には、2015 年度に 4 億米ドル超の生産性向上を目指しているところです。韓国での事業再編には引き続き進展が見られます。これらの経営努力の一部が短期的に業績に影響を及ぼす可能性がありますが、当行が持続的な利益ある成長軌道に戻るためには、そのいずれも重要です。」

グループ業績¹

	2014 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2013 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2014 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)	2013 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)
営業利益	4,514	4,471	13,783	14,222
営業費用	(2,523)	(2,424)	(7,606)	(7,458)
クレジットコスト・税引き前営業利益	1,991	2,047	6,177	6,764
顧客向け貸付金・その他信用リスク引当金に伴うクレジットコスト	(536)	(288)	(1,382)	(1,018)
その他のクレジットコスト	(3)	(1)	(188)	(12)
関連会社利益	78	72	191	184
税引き前利益	1,530	1,830	4,798	5,918

営業利益は前年同期比で、2014 年度上半期の減益から第 3 四半期には 1%増に転じて、45 億米ドルとなりました。2014 年度 1－9 月期の利益は 138 億米ドル(前年同期比 3%減)でした。その中には、グループ収益の 90%強を占める顧客収入が含まれていますが、その 1－9 月期の減少幅は 2%止まりで、底堅さが見られました。それに対して、同期間の自己勘定収益は 14%減で

した。

第3四半期の営業費用は25億米ドル(前年同期比4%増)でした。グループ営業費用の1-9月期の累計は76億米ドル(2%増)でしたが、規制・コンプライアンス関連コストを除外した増加率は1%以下に収まりました。

クレジットコスト(減損費用)は第3四半期に5億3,900万米ドル(前年同期比2億5,000万米ドル増)となりました。2014年度1-9月期は16億米ドルでした。クレジットコストの50%以上はリテールバンキング部門が占めていますが、その規模は第3四半期、1-9月期とも前年同期比で概ね横ばいでした。法人営業部門を中心に一部の貸付についてクレジットコストの増加が見られましたが、それはコモディティ(商品)価格の下落の影響を受けたことが原因です。

インド・中国の市場環境とコモディティ関連貸付全般については、引き続き注視しているところです。これらについては、貸付承認の基準を引き上げるとともに、当行のエクスポージャー軽減に努めています。

以上の結果、第3四半期のグループ税引き前利益は15億米ドル(前年同期比16%減)でした。1-9月期の税引き前利益は48億米ドル(19%減)となりました。

バランスシート

	2014年9月30日	2014年6月30日
	(100万米ドル)	(100万米ドル)
顧客向け貸付金	296,412	305,061
顧客預金	395,492	390,523

数字には、損益を通じて公正価値で測定する金融資産が含まれる一方、個別評価によるクレジットコストは含まれません。

顧客預金は2014年6月30日-9月30日現在までに、リテールバンキング部門と法人営業部門での増加を反映して、1%増加しました。顧客向け貸付金は、高水準の流動性及びリスク軽減措置並びに利益率の低い顧客リレーションシップの最適化などを反映して、第3四半期は3%減少しました。

当行グループの流動性カバレッジ比率・自己資本比率とも、国際統一基準を優に上回っています。

顧客別営業利益¹

	2014 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2013 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2014 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)	2013 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)
法人営業部門	2,562	2,521	7,896	8,098
コマーシャルバンキング部門	294	370	910	1,182
プライベートバンキング部門	155	142	469	443
リテールバンキング部門	1,503	1,438	4,508	4,499
総利益	4,514	4,471	13,783	14,222

法人営業部門の第 3 四半期の収益は 26 億米ドル(前年同期比 2%増)となりました。利鞘・スプレッドの低下が続いていますが、顧客取引が引き続き好調な水準で推移したことが増加に寄与しました。同部門の 1－9 月期の収益は 79 億米ドル(2%減)でした。

コマーシャルバンキング部門の第 3 四半期の収益は 2 億 9,400 万米ドル(前年同期比 21%減)となりました。ご参考までに、2014 年度上半期の減少幅は 24%でした。1－9 月期の前年同期比は 23%減でした。

プライベートバンキング部門の第 3 四半期の収益は、1 億 5,500 万米ドル(前年同期比 9%増)でした。1－9 月期は 6%増加しました。

リテールバンキング部門の収益は、第 3 四半期には 15 億米ドル(前年同期比 5%増)に達しました。1－9 月期は 45 億米ドル(前年同期比横ばい)でした。プライオリティバンキング、インターナショナルバンキング及びビジネス顧客各部門における高価値セグメント(HVS)の業績は好調に推移しました。その結果、コンシューマーファイナンス部門を含む、無担保ポートフォリオに対する継続的なリスク軽減措置による影響が相殺されました。

商品別の営業利益¹

	2014 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2013 年度 第 3 四半期 (100 万米ドル)	2014 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)	2013 年度 1 月－9 月 (100 万米ドル)
トランザクションバンキング	957	970	2,875	2,934
トレード	490	517	1,489	1,559
キャッシュマネジメント&カストディ	467	453	1,386	1,375
フィナンシャルマーケット	899	902	2,679	3,114
コーポレートファイナンス	614	606	1,855	1,844
ウェルスマネジメント	441	339	1,258	1,094

リテール商品	1,211	1,250	3,646	3,838
カード・個人ローン・無担保ローン	642	690	1,957	2,091
預金	311	290	909	895
住宅ローン&自動車ローン	225	241	699	760
その他のリテール商品	33	29	81	92
その他	392	404	1,470	1,398
ALM	119	101	539	406
レンディング・ポートフォリオ管理 (LPM)	251	264	780	786
プリンシパルファイナンス	22	39	151	206
総営業利益	4,514	4,471	13,783	14,222

トランザクションバンキングの収益は、第3四半期が9億5,700万米ドル(前年同期比1%減)、1-9月期が29億米ドル(2%減)でした。トレード事業の収益は、取扱総額の減少・利鞘の伸び悩みを反映して、5%減となりました。キャッシュマネジメントでは、取扱総額の増加が利鞘の低下圧力を相殺したことから、第3四半期は3%増、1-9月期は1%増となりました。

フィナンシャルマーケット事業を取り巻く環境は引き続き厳しく、第3四半期の収益は前年同期比で横ばいでした。フィナンシャルマーケット事業の1-9月期の収益は27億米ドル(前年同期比14%減)でした。外国為替業務では顧客需要は高水準で推移しましたが、そのプラス効果はボラティリティの低下・低金利環境によるスプレッドの縮小によって相殺されました。それを反映して、フィナンシャルマーケット事業収益のほぼ90%を占める顧客収益は、第3四半期が前年同期比3%減、1-9月期が7%減となりました。自己勘定収益は、第3四半期には9%増でしたが、1-9月期では49%減でした。

コーポレートファイナンス事業の第3四半期の収益は6億1,400万米ドル(前年同期比1%増)でした。同事業では、取引を実行するタイミングが市場環境によって左右される状況に変わりはありませんが、取り扱う案件は引き続き十分な水準で推移しています

ウェルスマネジメント事業の収益は引き続き堅調に推移しており、第3四半期は4億4,100万米ドル(前年同期比30%増)に上りました。特にプルデンシャルPLCとのバンカシュランス業務協定の恩恵が増益に貢献しました。

リテール商品事業の収益の第3四半期の収益は12億米ドル(前年同期比3%減)となりました。減少の主因は、韓国を中心とする無担保ポートフォリオのリスク軽減・不動産市場の過熱抑制策の住宅ローン事業への影響でした。

ALM 収益は第3四半期には前年同期比 18%増でした。これは、2014 年度上半期の場合と同様に、金利収益の恩恵を受けたものです。

プリンシパルファイナンス事業の収益は、第3四半期を通して市場環境が好転しなかったために、弱含みで推移しました。

見通し

厳しい市場環境が続いていますが、当行の顧客取引は引き続き活発に推移しており、バランスシートは盤石で、多様性が堅持されています。

2014 年度第3四半期の営業利益は前年同期比で増加しましたが、市場環境の厳しさは続いています。第3四半期に収益の増加傾向が若干弱まり、クレジットコストが増えたことを考慮して、2014 年度下半期の営業利益は前年同期を下回ると予想しています。低下の要因としては、英国の銀行税の増加と規制関連・組織再編関連コストも見込まれます。

当行はグループをあげて、短期的な問題への取り組みと新経営戦略の推進に全力を注いでいます。当該活動の詳細については、11 月の投資家向け資料にて説明をさせていただく予定です。尚、中間経営ステートメント(IMS)による決算情報の開示が拡大したため、各期の業績予想の発表は今後は行わない方針となりましたので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます

詳細につきましては、下記の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations	+44 (0)20 7885 7151
Jon Tracey, Head of Media Relations	+44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9312
CA.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」

「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものではないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。

<注釈>

「第3四半期」は2014年9月30日で終了した3カ月間を指します。「1-9月期」は2014年1月1日から9月30日までの9カ月間を指します。すべての比較は、特に断りがない限り、前年同期比の数値を表します。

¹自己クレジット調整(OCA)、ニューヨーク州金融サービス局(NYDFS)へ支払った3億米ドルの和解金の影響、2013年の韓国での営業権(暖簾代)減損を除きます。なお、英国の銀行税については、第4四半期決算に全額が計上されます。